

2. 2018 年度 ホスピス緩和ケア週間

安部奈津子 永谷貴美

(日本ホスピス緩和ケア協会 事務局)

日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice & Palliative Care Day)」を最終日とした1週間 (2018年度は10月7～13日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示およびセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいる。

第13回目を迎えた2018年もポスター・チラシ (図1)を作成した。当協会の会員をはじめ、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員、日本死の臨床研究会会員など、全国の関係者に案内して緩和ケアの普及啓発を目的としたプログラムの開催を呼びかけたところ、139施設より企画登録があった (図2)。

企画内容としては、講演会、パネル展示などを通して緩和ケアの知識を提供するもの、相談コーナー、茶話会など、話すことと聞くことに重きを置いたもの、またコンサートや演劇などを楽しみながら緩和ケアへの理解を深めてもらうものな

ど、合計357の企画が寄せられた (表1)。今年度は、栄養士によるがん治療中の食事の工夫や、理学療法士による在宅療養の手助けになる技の紹介といった多職種による講座や、メインの催しのほかにヨガやアロママッサージ体験など、リラックスし楽しみながら参加できる催しを組み合わせた企画が多数開催された。企画への参加者の内訳は表1に示すとおりで、市民や医療福祉関係者など8,800名余りの参加があった (展示会の参加者は含まず)。

実施施設からは「顔が見える関係づくり、地域・施設・病院の連携を深める機会となった」「市民の方々に緩和ケアについて知っていただくと共に、医療者にとっても寄り添うことの大切さを再認識するよい機会となった」といった報告が寄せられた (図3)。

2019年度の世界ホスピス緩和ケアデーは10月12日となっており、10月6～12日をホスピス緩和ケア週間として実施を予定している。



図1 2018年度ポスター (チラシも同デザイン)

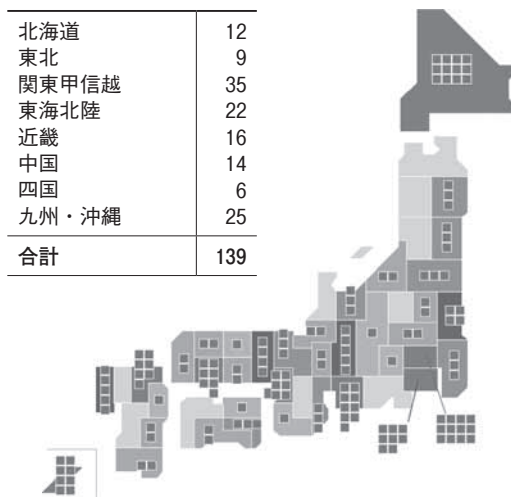


図2 各地域の企画登録状況

表 1 企画内容と参加者内訳

参加施設種別	企画内容 (1つの登録企画内で複数の企画開催有)	参加者内訳
★協会会員 97 (内 拠点病院 33)	①一般市民向けの講演会等	66
緩和ケア病棟 83	②医療従事者向けの研究会等	11
緩和ケアチーム 5	③緩和ケア関連のパネル展示	74
一般病院 5	④相談コーナーの設置	45
診療所 2	⑤チラシ・パンフレットの配布	37
準会員・賛助会員 2	⑥緩和ケア病棟見学会	32
★非会員 42	⑦コンサート・演劇等	27
がん診療連携拠点病院 9	⑧体験・試食コーナー等の設置	20
日本緩和医療学会会員 8	⑨茶話会・カフェ	13
学会会員+拠点病院 7	⑩DVD・動画の上映	6
学会会員+研究会会員* 3	⑪遺族会・懇親会等	8
拠点病院+学会+研究会会員 3	⑫その他(作品づくりなど)	18
不明(無記入) 12		
合計 139 (*研究会:日本死の臨床研究会)	合計 357	合計 8,836 (展示会来場者は含まず)



【市民対象の公開講座】
札幌厚生病院



【医師によるロビーコンサート】
宮城県立がんセンター



【相談コーナーの設置】
筑波メディカルセンター病院



【パネル展示】
伊勢赤十字病院



【日替わりミニセミナー】
愛知医科大学病院



【医療従事者による寸劇】
島根大学医学部附属病院



【演奏会】
徳島市民病院



【笑いヨガ体験】
大分県立病院



【アロママッサージ】
沖縄県立南部医療センター/
こども医療センター

図 3 催し物の実際 (一部紹介)